FUJI SABO通信　平成17年3月25日　第53号

ふじあざみ

発　行
国土交通省中部地方整備局
富士砂防事務所
富士宮市三園平1100
電話0544(27)6221
http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/

写真：御殿場市と富士山（左側中腹が宝永山火口）

大噴火のすさまじさを今に残す「宝永山」の姿

■火山弾や火山灰が大量に噴出

宝永4年（西暦1707）11月23日，富士山南東側の中腹で大爆発が起こりました。これが宝永の大噴火です。噴火地点に近い駿東郡印野村（現在の御殿場市）の当時の様子を，地元に伝わる古文書は次のように伝えています。「午前8時ごろ，山麓に大きな地鳴りの音が響き，大地が揺れ動いたかと思うと突然，印野村の上手で大爆発があり，それと同時に火柱と噴煙がうずを巻きながら噴き上がった。しばらくすると大量の石や砂が降下し始め，あたり一面は暗闇のようになった。」

■広い範囲で甚大な被害

宝永の噴火は溶岩をほとんど流出せず，火山弾や火山灰を多量に噴出しました。特に麓の山村は大きな被害に見舞われ，登山口のひとつ須走村（現在の駿東郡小山町）では，全75戸数のうち埋没・倒壊した家38戸，焼けた家37戸と，ひとつの村全体が被災するという状況でした。火山灰は須走で2.6m，小山町で1m，御殿場で0.7mも堆積しました。

写真：宝永山火口

火山灰は小田原，大磯，戸塚，川崎，そして遠くは江戸にまでも降り，時の六代将軍徳川家宣の学問の師新井白石は，自伝の中で「江戸でも地震がひどく，雷のような音が響き，火山灰が地面をおおい，草も木も真っ白になっている。降灰のため日中でも暗く，灯をつけて進講（学問をおしえること）しなければならないほどだ」と書いています。

また，御殿場の七つの村の被災から約1年後の様子をまとめた資料によると，人口2,070人のうち，死者または他村へ避難した人728人，飢えのため救済を求めている人1,109人，運良く被災せずに自力で生活できる人233人という記録も残っています。

■富士山噴火に備えて

その後，噴火は11月26日の夕方まで続き，12月8日夜半には噴煙もおさまったということです。この宝永の大噴火の様子を現在に残すように，第一火口の縁に隆起したのが写真の宝永山です。宝永の大噴火を最後に，富士山は現在まで約300年間その活動を休止していますが，活火山富士山と共存していくために，これからのまちづくりに関係の自治体が配付する富士山火山防災マップを有効に活用していくことが大切です。

●参考文献：国土交通省 中部地方整備局 富士砂防事務所発行「富士山の自然と砂防」

宝永噴火災害からの復興

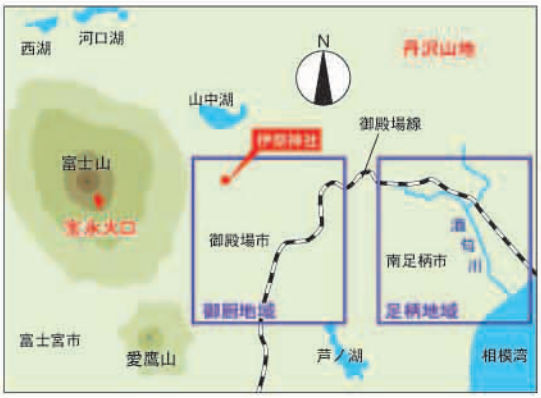
富士山の基礎知識

宝永噴火がもたらした人々の生活への打撃は計り知れないものでしたが、私たちの祖先は、懸命に地域を守り、現在の私たちがそれを引き継いでいます。

■御厨・足柄の地域に打撃を与えた宝永の噴火

現在の御殿場市および小山町は、古くは「鮎沢の御厨」と呼ばれていました。「御厨」とは伊勢神宮の荘園のことで、現在でも御厨という広域地名として使われています。また、酒匂川の扇状地である平野は「足柄」と呼ばれています。この御厨と足柄の2つの地域では宝永噴火によって大きな災害が発生しました。いずれの地域も当時は小田原藩領で、その領地の内、約6割にあたる地域が宝永噴火の被災地となりました。

降下火砕物※により富士山麓の多くの原野が燃えたり、立ち枯れたりするなど、採草地が壊滅状態になったため、その後相当長い期間にわたって、大変苦しい生活が続きました。



■噴火収束後も長く影響を及ぼす降下火砕物

足柄地域を含む富士山麓地域には膨大な量の降下火砕物が堆積し、多い所では5～7尺もの深さがあったとの記録があります。（1尺は約38cm。7尺だと約2m60cm以上積もった事になります。）足柄地域では、田畑を埋めつくし、農民を窮地に追い込んだ降下火砕物は、その後雨とともに酒匂川に流れ、川底に堆積していきました。このため、大雨の際には洪水となり、足柄平野一帯を水びたしにすると同時に、水とともに溢れ出た大量の堆積物が各地の田畑を埋めつくしました。このようなことが10年以上も続いたのです。現在はほとんど降下火砕物は残っておらず、その大部分は下流に流出したと考えられます。

一方、大量の降下火砕物に見舞われた御厨地域も、農作物などに大きな被害が生じ、噴火直後から深刻な食料問題が生じました。その他にも道が埋まって交通が困難になったり、水路が破壊されたり、土地の境界が不明瞭になるなどの問題も発生しました。また、この地域で飼われていた家の数を上回るほどの馬は、農耕馬であると同時に旅行者が須走から山中湖への道を抜ける際に人や荷物を運んで収入を得るための生活の糧でもありました。しかし、噴火による降下火砕物で牧草地も埋もれてしまい、牧草が極端に不足し、馬を飼うことが困難な状況になりました。生活が立ち行かなくなった人々は、いくらかの現金を手にいれようと、仕方なくこれらの馬を手放しました。さらに、この地域の冬場は相当に寒く、暖をとる薪や炭も不足し、人々が災害前の暮らしを取り戻すためには植生の回復を待つという長い時間が必要となりました。

■被災住民の苦労と復興

宝永の噴火により、御厨地域の須走村も廃村になりかけていましたが、富士参詣者などを泊める宿泊施設となっていた家屋の再建資金を幕府が支給することになりました。幕府が須走村の復興に積極的に手を貸した背景には、須走村が甲斐と駿河を結ぶ交通の重要な場所であったためでした。

しかし、降下火砕物に埋もれた地域一帯の困窮はつのる一方で、被災地の村々はまとまって、幕府に餓死者が出ている状況を訴え、救済を嘆願しました。嘆願のために江戸に向かった人々の数は4千～5千人にものぼったと伝えられます。これを受けた幕府は、土木技術を得意とし、関東郡代の職を代々受け継ぐ家筋であり、本人もすでに永代橋架橋や利根川・荒川治水などで手腕を発揮していた「伊奈半左衛門忠順」を災害対策の指揮に当たらせました。忠順は現地を視察し、飢餓の状態を調べ、被災者たちの訴えに応じて主に3つの対策を実施しました。1.「飢えの迫る被災者に対する食糧の支給」2.「田畑に積もった石や砂など降下火砕物の除去」3.「用水路の整備と用水供給源である川（特に酒匂川）の復旧」これらの対策を軸に、被災者たちは一家の中心となる者が忠順の指揮のもと復興工事に尽力し、その他の働ける限りの男女は出稼ぎに出るなどし、幕府からの補助の不足分を補うなど、極限の状況の中で復興に力を尽くしました。

御厨地域では噴火から2年後の宝永6年における困窮状態は、村の人口の50%が飢えに苦しみ、救済の必要がない人は全人口のわずか10%程しかいなかったと言われています。今も残されている当時の嘆願書を見ると、噴火後10年を経ても救済の手が必要な状況であったということです。

このように、大きな災害からの復旧・復興には長い年月と莫大な費用が必要になるということがわかります。

伊奈半左衛門像（須走市伊奈神社）

（※：噴火により火口から高く噴き上げられ、降下した火山岩塊、火山礫、火山砂、火山灰。）

●参考文献：国土交通省 中部地方整備局 富士砂防事務所発行「富士山宝永噴火と土砂災害」
：御殿場市発行「御殿場市史（通史編 上）」：小山町発行「小山町史（第二巻）」

地域の暮らしと日本の大動脈を守る

温暖な気候で果樹栽培に適した由比の傾斜地は，幾度となく地すべりを引き起こしてきました。

由比の地すべり対策事業

■由比の地形が育む果物

静岡県庵原郡由比町は，面積の約70%が傾斜地です。この斜面では温暖な気候を生かし，古くからみかん栽培が盛んに行われており，晩秋から初冬にかけて山々はオレンジ色の模様が広がります。また町の南端に位置するサッタ（薩埵）峠付近では，ビワも栽培されています。ビワは温暖な海岸沿いの傾斜地が栽培に適しており，粒が大きく甘さがあると評判の由比のビワは6月中旬から7月上旬にかけて出荷されています。

■東西交通に安全と安心を

サッタ峠付近は，昔から交通の難所として知られてきました。歌川広重が描いた東海道五十三次の一つである「由井」には，急峻な地形と駿河湾に挟まれたサッタ峠の様子が描かれています。ここは，現在では日本の大動脈（高速道路，国道1号，JR東海道本線等）が集中する場所です。昭和36年3月由比町で大規模な地すべりが発生しました。このため，国は各省庁からなる調査団を編成し，防災対策を検討し，土砂の処理など対策を実施しました。昭和49年の台風8号の集中豪雨では東海道本線は7日間，国道1号は23日間交通が途絶えました。

平成16年の国土交通省富士砂防事務所の調査では，サッタ峠付近において，豪雨や東海地震等により地すべりが発生する恐れがあることが新たに判明したため，当事務所は平成17年度より地すべり対策事業に着手しました。

由比町寺尾地区の地すべり（昭和36年3月の地すべり）

●参考文献：(社)中部建設協会 静岡支所発行「東海道薩埵峠―東と西の出会う道」

富士山に寄せる想い

富士山への手紙・絵コンクール（手紙部門）最優秀賞・特別賞を紹介します

富士宮市、富士砂防事務所主催の第9回富士山への手紙・絵コンクールの表彰式を平成17年2月5日に富士宮市民文化会館で開催しました。富士山への想いをつづった手紙部門の入賞作品を紹介します。

最優秀賞

小学生低学年の部

深沢 友香（ふかさわ ゆか）
富士宮市立東小学校

おきなわに行く時に、大きくドカンと立っている富士山が見えました。と中で夕やけになって、ゆうやけの色の富士山が見えました。よそゆきの着物を、着ているなと思って、じっと見ていました。
そこで、はいくを、考えました。
“富士山は　着物を着てて　美人だな”
オレンジ色の着物を、身にまとっていて、本当にきれいでした。
帰りのひこうきからも、富士山が見えてきました。わたしたち家ぞくと、いっしょに帰ってきたみたいと、思いました。
そこで、はいくを、また思いつきました。
“富士山と　行きも帰りも　にらめっこ”
です。
富士山は、やっぱりいつも、ドカン。大好きです。

小学生高学年の部

鈴木 健太郎（すずき けんたろう）
富士宮市立富丘小学校

富士山、ぼくは、二つのあなたを知っています。
一つは、遠くから見て、青々として、美しいあなた。
もう一つは、登ってみたときの岩だらけのごつごつとしたあなた。
そのどちらも同じ富士山で、山も人も同じで、いろんな顔を持っているんだと感じました。
友達と仲良く遊ぶぼく。弟に、いじわるをしてしまうぼく。勉強をがんばるぼく。時々、わがままをいってしまうぼく。いろんなぼくがいて、健太郎なんだよね。
今年、あなたに登ってみて、あなたの厳しさもわかりました。
がんばって登りきった達成感は、忘れられません。
苦しくっても逃げないぼくをみつけました。
これからも苦しい時あなたをみて、がんばろうと思いました。

中学生の部

志村 恵（しむら めぐみ）
富士宮市立富士宮第二中学校

富士山の絵を描いた。画面には富士山と空。でも、それは富士山に見えない。どこか小さくて、弱々しい、死んでいるようだった。
美術館に行くと、そんな富士山はいなかった。
画面一杯の「生命」。キャンバスも、紙も生きていないはずなのに、沢山の「生命」を感じる。
様々な「動き」を感じる。
画面上の富士は、大きく、強く、生きていた。
私はその後、一人の画家に会った。その画家は言う。
「静」と「動」を画面に表すんだ。
その画家の「静」を富士、「動」を雲としたキャンバスは、生命にあふれていた。
そうか、私の富士山が死んでいたのは、「動」が無かったから。「静」だけでは生きず、きっと「動」だけでも生きれない。共存することで生まれる、生命の不思議。
私はすぐに筆をとり、一羽の鳥を描き入れた。富士からも鳥からも、力一杯の鼓動が聞こえた。

高校生・成人の部

小林 まさお（こばやし まさお）
富山県上新川郡大山町

健康自慢の父が脳出血のため倒れた。そのうえ老人性の痴呆症も併発した。遂に父は自身に関する一切を忘れた。また妻である母と一人子である私に関する一切も忘れた。自身が購入したマイホームのベッドで療養していることさえも分からぬ父が可哀想であった。
数年後、母が父を風呂に入れて洗髪や髭剃りをすると「有難う」と頭を深深と下げた。
またメロンや白桃、葡萄や梨などを食べると「有難う」と矢っ張り頭を深深と下げた。
不意に父が「富士山に登りたい」と言い出した。父の真意が分からず母と私は首を傾げた。だが執拗な父の求めには根負けした。明くる朝早く父は二階に至る階段を上り始めた。父の背なと腰部を母と私がしっかり支えた。
父は階段を上りきった。「お目出度う」と母と私は父を称えた。父は緊張の面持で母に向い合った。「何時もお世話になります。日本一の山頂で結婚を申し込みます」と頭を深深と下げた。忽ち母の目からは涙が溢れた。

特別賞

松本 優一郎（まつもと ゆういちろう）
富士宮市立大宮小学校

ふじ山、お元気ですか？ぼくが見えますか？ぼくは、二年生さいごの日、まだ九九がぜんぶ言えませんでした。家に帰ってぼくは、心の中で、
（このままだと三年生になれないな。）
と思ってないていました。そしたらお母さんが
「ゆう一郎、
ふじ山を見てごらん。お父さんは三時間で登ってしまうけど、お母さんは七時間もかかったよ。ゆっくりでもいいよ。ゆう一郎は、今八のだんだから八ごう目だよ。がんばりな。」
と言いました。ぼくは、春休みも学校に行って九九のしけんをやりました。三月二十三日九九めんきょがとれました。九九めんきょしょうは、ぼくの大切なたからものです。こんどお父さんといっしょにふじ山に登ります。

お知らせ

富士山火山防災マップ説明会

平成17年1月28日に富士宮市民文化会館において，富士砂防事務所主催「富士山火山防災マップ説明会」を開催しました。富士山火山防災マップ策定にかかわった荒巻重雄東京大学名誉教授，小山真人静岡大学教授，（財）砂防・地すべり技術センター池谷浩専務理事の3名を講師にお招きしました。

第2回富士砂防事務所工事安全協議会

平成17年2月17日に富士砂防事務所発注工事等を対象に「第2回工事安全協議会」を開催しました。富士労働基準監督署より工事現場における労働災害についての講話をいただきました。また静岡河川事務所安倍川出張所との合同で工事箇所のパトロールを行い，作業員等に対する安全対策の点検を行いました。

第1回富士山火山砂防計画検討委員会

平成17年3月11日富士宮市内において「第1回富士山火山砂防計画検討委員会」を開催しました。学識経験者と行政担当者により富士山火山防災マップで火山噴火影響範囲に想定されている火山災害を軽減させる砂防対策のため，対象とする現象・規模・工法等について検討を行いました。検討結果等については富士砂防事務所のホームページに掲載しています。

火山防災訓練

平成17年3月2日富士砂防事務所において所員を対象に，富士山の噴火を想定した防災訓練を実施しました。

環富士山火山防災連絡会

富士山麓を取りまく山梨，静岡両県の市町村による富士山の噴火に備えるための防災連絡会「環富士山火山防災連絡会」の設立総会が平成17年4月11日に開催される予定です。

富士山総合学習及び現地見学会結果報告

実施日	見学者等	参加人数	行事内容
2004年12月14日(火)	御殿場養護学校高等部	22名	総合学習
2005年 1月28日(金)	富士市立天間小学校　5年部	68名	扇状地見学
2005年 2月 2日(水)	ぐるっと富士山勉強会	40名	扇状地見学
2005年 2月17日(木)	富士宮青年会議所	65名	概要説明.講演会
2005年 2月21日(月)	ぐるっと富士山勉強会	45名	扇状地見学
2005年 3月 1日(火)	富士宮第一中学校1年生	180名	総合学習
2005年 3月10日(木)	ぐるっと富士山勉強会	60名	扇状地見学
2005年 3月11日(金)	JICAインドネシア	1名	概要説明と扇状地見学
2005年 3月18日(金)	JICAイラン	4名	概要説明と扇状地見学
2005年 3月23日(水)	ぐるっと富士山勉強会	60名	扇状地見学

第3回由比地すべり対策検討委員会

平成17年2月18日に静岡市内において「第3回由比地すべり対策検討委員会」を開催しました。地すべり対策を早急に実施する必要性や今後の調査及び観測計画などについて討議しました。平成17年度以降は，委員会の下に地震対策と地すべり発生機構について技術的検討を行う技術検討部会を設置し，より専門的な検討を行っていく予定です。

富士山学習発表会

平成17年2月5日に富士宮市民文化会館にて富士宮市，同教育委員会，富士山学習研究委員会主催により，「富士山学習発表会」が開催されました。

富士宮市内の小学生・中学生が年に一度，富士山について学習してきたことを発表しました。併せて，同じ会場にて「富士山への手紙・絵コンクール」最優秀賞授賞式と入賞作品の展示（2月5日～8日まで）を行いました。

中部国際空港開港

中部国際空港が平成17年2月17日に開港しました。愛称は「セントレア」。日本の中心にある空港という意味を込めています。24時間運用可能な国際空港です。

写真提供：中部国際空港株式会社

愛・地球博
EXPO 2005 AICHI JAPAN

愛・地球博開催

2005年日本国際博覧会「愛・地球博」が愛知県長久手町と瀬戸市において平成17年3月25日から9月25日まで開催されます。「自然の叡智」をテーマに世界の国々の最先端の技術や食に出会えます。

お詫びと訂正

前号のふじあざみ52号におきまして，誤りがありました。2ページ「平成16年12月5日土石流状況」の右上のグラフ「大沢崩れ付近の気温と降水量」の凡例の中で，雨量（御中道）ではなく雨量（大滝）でした。読者の皆様にご迷惑をおかけいたしました。ここにお詫びし，訂正します。

●ご意見・ご感想・ご質問など、お気軽にお寄せください。

富士山に関する古い写真・資料等をお持ちの方，また災害体験をされた方の情報提供をお願いいたします。

●お問い合せ・ご連絡先

■国土交通省富士砂防事務所
〒418-0004　静岡県富士宮市三園平1100
担当／総務課長・釜崎，または調査課長・伊藤まで
TEL.0544-27-5221

インターネット http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/

■富士宮砂防出張所
〒418-0103　静岡県富士宮市上井出826-1
TEL.0544-54-0236

「ふじあざみ」に掲載している内容・データ等は、現時点までに得ている調査結果を基にしています。

今後の調査等の進展により、内容の一部または全部に変更が生じる場合もあります。